

# ハンギングバスケット

## 用意するもの

### つり鉢

飾る場所にあったデザインと材質（ワイヤー製、プラスチック製、素焼きなど）のものを選ぶ。

### 植物

花色の組み合わせ、葉物のバランスを考えて、下垂するものを上手に取り入れる。

### 用土

軽くて、保水性に富むものがよい。

（配合例 赤玉土3：パーミキュライト4：腐葉土またはピートモス3）

### ミズゴケ

土の流失と乾燥を防ぐために表面に薄く敷く。

### 肥料

緩効性の化成肥料がにおいもなく、手軽に使える。

## ハンギングバスケットに適した植物

花期が長く 花が多いもの	インパチエンス、エボルブス・アメリカンブルー、ペチュニア、バーベナ、クリサンセマム・ノースポール、ゼラニウム、トレンシア、パンジー、ビオラ、ペゴニア・センパフローレンス、マリーゴールド、ロベリアなど
下垂するもの	イボメア、ゴシキハツユキカズラ、ツルニチニチソウ、トラデスカンチア、ナススタチウム、ニーレンベルギア、バーベナ、フィクス・プミラ、ヘデラ、ブライダルベール、ヘリクリサムなど
葉が美しいもの	オリヅルラン、コリウス、コニファー類、シロタエギク、フィクス・プミラ、デュランタ、テランセラ、ネフロレピス、リュウノヒゲなど

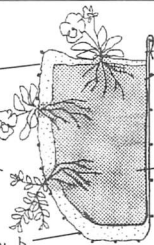
### ミズゴケ

土の表面にも  
うすく敷くとよい

### 植物

ワイヤーの間に  
入るように、  
根鉢をすこし  
つぶして入れこむ

ワイヤーバスケット



### ビニールシート

上部はホッチキスで  
しっかりととめ、  
底部は数ヶ所  
穴をあけておく

### 用土

緩効性化成肥料  
をまぜておく

①ビニールシートを背面と  
底面に敷く。

②ミズゴケを外側に敷き、  
用土を入れながら、  
植物を植えていく。

③さらに用土を加え、  
上部の植物を植える。  
すきまがないように、  
しっかりと用土を入れておく。

ワイヤー製ハンギングバスケットの作り方

## 管理のポイント

### 置き場所

日当たりと風通しのよいところを選ぶ。玄関前などの明るい日陰に飾るときは、観葉植物を中心に選び、週に1度は日に当ててやる。

### 水やり

ハンギングバスケットはどうしても乾きがちになるので、他のコンテナよりも注意が必要。特に夏のあいだは1日朝夕2回、他の季節も1日1回は確認をして、乾いていたらたっぷりと与える。

### 施肥

毎日のかん水によって肥料分が流失しやすいので、1週間から10日に1回、薄目の液体肥料を水がわりに施すとよい。

### 手入れ

花がらをこまめに摘むとつぎつぎと花が咲き、株も長持ちする。伸びすぎたり、茂りすぎたつや、枝、葉などは剪定して、全体の形を整える。

## 飾りつけのポイント

- 飾る環境と景観を考えて植物やつり鉢を選ぶ。最近では、様々なデザインのつり鉢が手に入るので、購入する前にイメージをえがいておくとよい。
- たくさん飾ればよいというものではなく、建物やほかのコンテナとのバランスを考えて1～数个を配置する。その空間のアクセントとして扱うとよい。



青森市植物公園